城北まちづくり通信

2023/3/23
４４号
城北まちづくり協議会
事務局：城北地区公民館

「地域の“話し愛・支え愛”推進事業」モデル地区指定（報告）

ここ２年間、「**地域の“話し愛・支え愛”推進事業**」のモデル地区指定を受け、下記の内容を確認した上で、城北のまちづくりの点検と充実に取り組みました。

“基本的な福祉ニーズは公的な福祉サービスで対応する”、という原則を踏まえつつ、“制度の狭間”にある困りごとに対応する“まちづくり”を、鳥取市（鳥取市社会福祉協議会　地域福祉課）と協働して取り組む。

昨年度は、子育て世代のお母さんからの、「必要でなくなった子ども用品を、譲ってもらえないだろうか？」という“つぶやき”を拾い上げ、「子ども用品リユース事業：『**よってみんさい**』」を事業展開しました。

この事業の目的は、「城北まちづくり協議会」をプラットホームにした、公民館・民生児童委員・子育てサークル・保健所・人権センター・市社協等の関係機関とのネットワーク化のあり方や、地域ボランティアの掘り起こし・地区情報の発信のあり方等を検証することでした。

本年度は、城北地区の強みを活かした“まちづくり”に視点を当てました。
城北地区の強みは、公民館を拠点とする住民活動（公民館利用者数鳥取市最多）です。
この、「通いの場」・「交流の場」・「学びの場」・「社会とつながる場」・「情報提供の場」を、潜在的な福祉課題の解決に結び付けたいと考えました。
そこで、下記の内容を確認し『城北地区「支え愛」連携協議会』を立ち上げ、関係行政機関・地域活動団体の関係者と協議を重ねました。

困ったとき、当事者が孤立することなく、“困りごとを相談する場所”、地域に「話し愛・支え愛」の輪（仕組み）があることを、「見える化」して、情報提供できる冊子（保存版）を作成する。

今回、『**城北地区　支え合いネットワーク**』〔**保存版**〕を、全戸配布することが出来ました。

この2年間、立場の違う誰もが「いいね！」と感じるまちづくりの輪を、一人でも多くの住民に広げたいと考えました。多くの企画が、刻々と変化する感染状況の中で修正や中止に迫られました。
財政的・人的事業支援を受けることのできる、せっかくの機会を活かして、何とか事業展開し、地域に貢献できないものかと、検討を重ねた２年間でした。多くの方に協力いただきました。ありがとうございました。